

第19期第11回常任理事会

議 事 録

日 時 昭和52年11月17日 15.00~17.00

場 所 気象庁総務部入札室

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 杉本, 立平, 松本, 股野.

報 告

[庶 務]

1. 10月20日, 地球物理学学会連合幹事会の日本海洋学会から, 「文部省科学研究所審査委員の任期に関する意見調査」の依頼があった。

2. 10月20日, 日本陸水学会長, 第21回国際理論応用陸水学会議運営委員長から, 会議開催の通知がきた(55年8月24日~31日於京都国際会館)。

3. 10月24日, 藤原科学財団から, 第19回藤原賞受賞候補者推薦依頼がきた(締切り53年2月28日)。

4. 11月2日, 第15回理工学における同位元素研究発表会運営委員長から, 第1回運営委員会の記録押送, 論文募集要領および共催分担金について, 依頼があった。

なお, 運営委員の矢野直氏から, 特別講演ならびにパネル討論の候補テーマについて, 常任理事会で取り上げて欲しいとの申し出があった。

5. 11月10日, 文部省学術国際局長から, 「公益法人会計基準について」通知がきた(11月30日説明会が朝日新聞社において開催される)。

6. 11月11日, 日本学術会議会長から, 日本学術会議と学協会との懇談会の開催について通知がきた(12月14日於日本学術会議)。

7. 11月11日, 日本学術会議広報委員長から, 日本学術会議総会報告(要約)が送られてきた。

[気象集誌]

現在, 集誌に用いている用紙は, 輸入が困難になってきたので, 来年の56巻1号からは, 国産の用紙に変えたい。重さは同じ55kgのものである。

前の常任理事会で, 55巻5号に6編外国人の投稿のものが掲載され異状であるとのことで現在調査中であるが, 中間報告として,

- (1) 1960年は, 論文数, 頁数共に順調に増えている。30編収録。
- (2) 1970年は, 50編でコンスタントとなっている。
- (3) 米国の場合は増えている。
- (4) 日本で減少しているのは, ページチャージの問題があって投稿しにくいのではないか。

また, 投稿から出版までの期間が当学会では, ここ数年6か月となっている。諸外国では, 8か月から1年位となっている。

議 題

1. 日産科学振興財団からの, 第4回(昭和52年度)日産学術研究助成候補者の推薦について,

立平理事から, 早稲田大学教授の塩沢清茂会員よりの「環境アセスメントの方法に関する基礎的研究」について推薦方依頼があった旨報告された。これに対し, 提出前に河村理事(当日欠席)に審査して貰うこととし, 公示に要した印刷費は, 従来通り請求しないことにした。

2. 学会費の値上げについて

杉本理事から, 53年度の学会費の算定について, 説明があった。それによると, 会費は, 天気および気象集誌の発行, 送付, 学会運営に要する経費に充当されるものとする。現行会費では賄うことができない。気象研究ノートの収益は, 一定ではないので, 54年度からは, 会費の値上げもせざるを得なくなる。

これに対し, もっと詳しい資料を作って, 全国理事に意見を求めることにした。

3. その他

(1) 科学技術社との広告掲載取り扱い契約書の更改について, 最近広告取扱件数が減少してきているので, 広告契約高の50%が13万円に満たない時は, 13万円とすることになっているが, 10万円にして欲しいとの業者の申し出に対して, やむを得ないという結論になった。

(2) 評議員との懇談会について, 12月中旬に催すことを了承した。

(3) 仙台における秋季大会の日取り(53年11月14日~16日)について, さしつかえない旨を連絡することとする。

(4) 次期選挙管理委員長依頼の件

予報部が順番に当たるので, 内田理事に適当な方に交渉して貰う。

(5) 支部交付金, 学会費, 藤原賞の増額については, 全国理事会で議論されていることでもあり, 考慮してはとの理事長発言があった。

(6) 学会賞に応用を分けて設けることについては, 規約上分ける必要はないとの結論に達した。